# 千代田区まちづくりプラットフォームの あり方骨子(案)

令和4年12月

# 目次

第1	. 章	まちづくりプラットフォームのあり方の概要	1
1	策定の	趣旨	1
2	位置で	うけ	1
3	背景		2
第2	2章	千代田区における合意形成のあり方	5
1	合意形	:成とは	5
2	まちつ	くりの合意形成の課題	5
3	千代田	区におけるまちづくりの合意形成のあり方	6
第3	章	合意形成を支えるまちづくりプラットフォーム	7
1	目的		7
2	対象		7
3	まちつ	らくりプラットフォームの全体像	7
4	まちつ	くりプラットフォームの機能	9
笙 ⁄	音	納得・許容が得られる今音形成に向けて	11

# 第1章 まちづくりプラットフォームのあり方の概要

#### 1 策定の趣旨

千代田区は、江戸城を中心に発展したまちを基盤としつつ、明治以降は首都東京の中心として 都市機能と人の集積が進み、震災や戦災を乗り越えながら発展し、まちの歴史を重ねてきまし た。そのため、千代田区内には、国際的なビジネスエリア、文化・芸術の中心地、伝統を受け継 ぐ老舗の集積地、学生街、歴史ある閑静な住宅地など、様々な特色を持つエリアが混在し、多様 性のあるまちを形作っています。

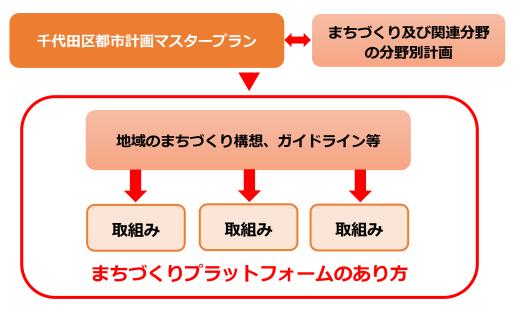
千代田区の定住人口は地価の高騰や業務地化によって昭和30年代から減少の一途をたどり、平成12年には4万人を下回りましたが、その後はマンション開発などにより徐々に人口が増加し、平成29年に6万人を突破しています。また、昼間人口は夜間人口のおよそ14倍となる約90万人と、昼夜間人口比率が23区で最も高くなっており、区内の様々な企業やそこで働く人々も、まちづくりにおける重要な関係者となっています。このように、ファミリー層を中心とする新たに転入した住民や区内に居住する外国人、区への通勤・通学者など、千代田区のまちづくりにおける関係者は時代とともに多様になっています。

まちづくりを進めるうえで、これらの関係者の間で合意形成を行うことは必要不可欠であり、 そのあり方は時代の流れに合わせた変化が求められています。

この「千代田区まちづくりプラットフォームのあり方」は、千代田区と区民・企業等が一体となってまちづくりを進めていくために、現在の社会情勢や人々の価値観に沿ったきめ細やかな合意形成を推進するため、千代田区における合意形成のあり方と、その仕組みとして「千代田区まちづくりプラットフォーム」の姿を示すものです。

# 2 位置づけ

千代田区まちづくりプラットフォームのあり方は、区のまちづくり分野の最上位の方針である 「千代田区都市計画マスタープラン」の実現に向けて展開される様々な取組み等について、地域 が一体となって推進できるようにするための基盤となるものです。



#### (1) 近年の社会情勢等

これまでのまちづくりやその際の合意形成は、行政が公共の担い手であるという観点のもと、 比較的画一的なステークホルダーの捉え方やまちづくりの方法論に基づいて進められてきました。しかし昨今は、国や自治体による一元的・平等主義的な公共事業・サービスではなく、住民 や地域組織、企業等の民間の多様な主体が担い手として参加し、官民が協働で形成する「新しい 公共」が求められています。

また、近年、社会・経済状況の変化や地域コミュニティの流動化、個人の価値観の多様化、デジタル化やコミュニケーション方法の多様化など、急激な社会変化等が生じています。

こうした状況により、まちづくりの合意形成の現場においては、関係者の増加と範囲の拡大、 それに伴う合意形成の複雑化や長期化等の課題が生じています。

#### (2)区の動向

#### 〈千代田区の特色〉

千代田区内には、歴史や文化を感じられる落ち着いた住環境と都心の利便性が調和する麹町・番町・富士見エリア、下町文化や界隈の個性を継承しつつ新たな魅力・価値を創造する秋葉原・神田・神保町エリア、政治・経済の中枢として首都東京を牽引しながら進化を続ける都心中枢エリアの3つの基本エリアが存在します。

千代田区は、それぞれのエリアの個性や魅力等の違いを活かし、相互に作用させることで、区の魅力や価値を一層高めるまちづくりを展開しています。

一時は4万人を下回った千代田区の定住人口は、居住機能の回復を目指したまちづくりの推進により、平成25年に

独町・番町・ 富士見エリア 神保町エリア 神保町エリア 都心中枢 エリア

▲千代田区の基本エリア (千代田区都市計画マスタープラン)

は、平成4年に区の基本構想で目標に掲げた定住人口5万人に到達しました。現在も増加傾向にあり、令和4年10月1日時点では約6万7000人となっています。千代田区は転入・転出が活発であり、毎年区民の1割ほどが入れ替わっています。

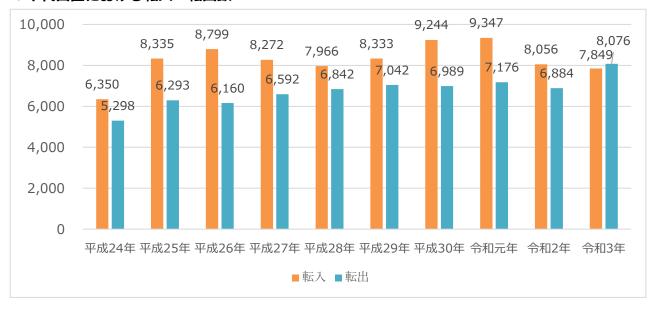
また、昼間人口は約90万人と、多くの人々が千代田区に通勤・通学しています。

このように千代田区における様々な環境が変化し、そこで活動する人々が多様化する中で、よりきめ細やかにまちづくりの合意形成を行っていくことが求められています。

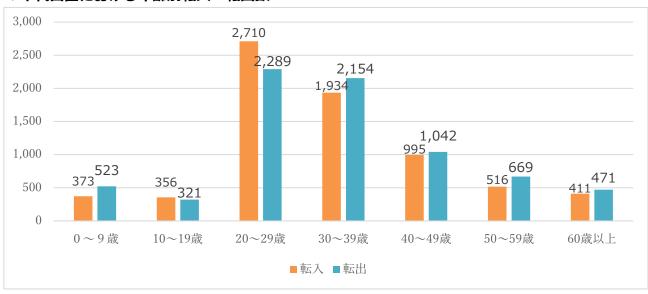
#### ▼千代田区の総人口の推移(千代田区人口ビジョン(令和3年度))



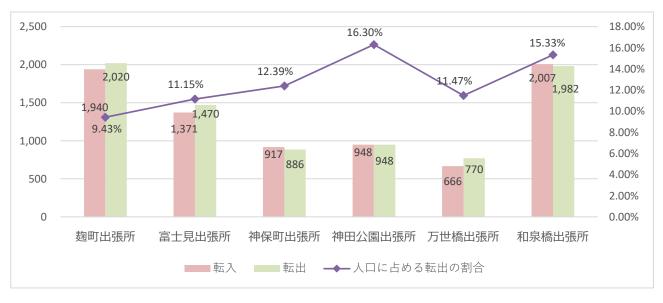
#### ▼千代田区における転入・転出数



#### ▼千代田区における年齢別転入・転出数



#### ▼地域別転入・転出者数及び人口に占める転出者数の割合(令和3年)



#### 〈千代田区のまちづくりの動向〉

千代田区では、昭和 62 年策定の「千代田区街づくり方針」において、定住人口の回復と、区民生活と都市機能の調和を目標に定め、区民・企業・行政の三位一体によるまちづくりを進めてきました。

平成 10 年に策定された千代田区都市計画マスタープランにおいては、土地利用の方針の一つとして、地域の住民・企業の参加と合意を得ながら、きめ細かくまちを更新していくことが定められました。その後、千代田区では公共空間活用検討会や各地域のまちづくり協議会等を通じて地域課題の解決についての地域別の議論が行われ、区や各地域の実情に沿ったまちづくりが進められてきました。

令和3年5月に改定された千代田区都市計画マスタープランでは、将来像を「つながる都心」と定め、まちに関わる多様な主体が相互につながりを強めて、地域一体となったまちづくりの展開を目指しています。また、「つながる都心」を実現するためのウォーカブルなまちづくりの方針である「千代田区ウォーカブルまちづくりデザイン」(令和4年6月策定)においては、ウォーカブルなまちづくりの実現のため、区民・事業者・行政が一体的に取り組んでいくとともに、多様な主体で共創しながら推進していくための場づくりの必要性を示しています。

#### 〈千代田区のまちづくりにおける合意形成〉

千代田区では、これまでのまちづくりにおいて、都市計画法など法令に定められた手続きを進める中で、区民等の意見を反映し、そのプロセスによって合意形成を図ってきました。

また、法令に定めのない地域のまちづくり構想やまちづくりガイドライン、開発等においては、平成 26 年 4 月に策定された「千代田区参画・協働ガイドライン\*」に定められた手続きを準用することで、区民等の参画と協働を図り、そのプロセスによってまちづくりの合意形成を行ってきました。

これらの合意形成のプロセスは、区と区民等における参画・協働には有効に活用され、区と区民等との合意形成に機能してきました。しかし、まちづくりに関わる人が多様化し、「区民と区民」の合意形成の重要性が増す中、これまでの合意形成のプロセスに加え、よりまちづくりに特化した合意形成の仕組みが求められています。

\*千代田区参画・協働ガイドラインは、区民等の区政への参画と、様々な活動主体と区及び活動主体同士の協働を推進する際の、区の職員の基本姿勢やそのための手法等を示すものです。

# 第2章 千代田区における合意形成のあり方

### 1 まちづくりの合意形成

合意形成とは、多様な利害関係者の意見の一致を図ることです。

まちづくりにおいては、日々の生活や価値観に影響し、権利や利害に触れることから、関係者間で意見の相違や対立が生じることがあります。

十人十色の意見がある中で、全員の考えが一致することは現実的ではありません。仮に意見を 賛成・反対としたときに 100 対 0 になったとしても、100 の中には全面的に賛成・反対の人や、 どちらかというと賛成・反対の方等がいて、完全に意見が一致することはほぼありえないと考え られます。

そのため、合意形成を図るうえでは、**議論をはじめとした適切なプロセスを通じて、お互いが お互いの意見に対して納得し合える着地点を見出していく**とことが重要です。

#### 2 まちづくりの合意形成の課題

千代田区におけるまちづくりの合意形成の課題として、次の3つが整理されます。

#### 1 まちづくりに関する情報の共有

合意形成の場において、参加者がまちづくりに関して有する情報に差があることで、合意形成を進めることが困難になる場合があります。そのため、まちづくりに関わる人々が等しくまちづくりの情報にアクセスできるようにすることで、共通の情報をもった状態で議論できる環境をつくることが重要です。

#### 2 社会・地域・コミュニティの変化に対応した場づくり

デジタル化の進展やコミュニケーション方法の変化、自治会への加入率の低下など、社会・ 地域・コミュニティの様々な変化に伴い、まちづくり等への関わり方等が変化する中、従来通 りの手法では、地域の合意形成が十分にできない事例が生じてきています。そのため、多様な 人たちが参画し、合意形成をするための場づくりが必要です。

# 3 区民等の増加と価値観の多様化への対応

区内で住み、働き、学ぶ人々の増加に伴い、人々の考え方や価値観も多様化してきています。そのため、暮らしやすさや働きやすさ、愛着、利便性等、まちへの評価の観点が様々となっています。そのような中、多様性を課題解決やまちの魅力向上につなげ、地域で共感できるまちづくりを進めていくことが必要です。

#### 3 千代田区におけるまちづくりの合意形成のあり方

上記の課題をふまえ、千代田区におけるまちづくりの合意形成のあり方を以下のように定めます。

なお、このあり方の実現に向けては、まちづくりの合意形成の取組みを進める際に、まちづくりの重要度とそれに伴うスピード感、地域の実情等によって、期限の設定や最適な手法の選択等をしていく必要があります。

#### ①情報の共有

立場が異なると、得られる情報の量や内容も異なります。合意形成の重要な材料である情報に不均衡が生じていると、合意形成が困難になることから、関係者が持つ情報の質・量を同じものとしていく必要があります。そのために、情報の発信側の関係者は、関係者全員が同じ情報にアクセスし共有できるようにするとともに、多様な手段で関係者にそのことを発信することで、関係者が情報を「自分事」としてもらえるように工夫することが必要です。同時に情報の受信側の関係者も、それらの情報を積極的に取得していくことが必要です。

また、関係者がまちづくりの内容だけでなく、お互いの立場や意見等の基礎情報や、それぞれ の意見の基となるデータ等を共有し、理解し合うことも重要です。

#### ②議論の場の形成

まちづくりは、多くの人や物事に対して広く影響を与えます。そのため、まちづくりを検討する際は、多種多様な関係者が自由に参加する開かれた場において、多様な手法を組み合わせて活用することで幅広く意見を募り、合意形成に向けて議論を積み重ねることが求められます。議論においては、お互いの立場や意見を認め合い、理解し合うことが重要です。

また、議論の場を設ける際には、議論の関係者を明確に把握しておく必要があります。

#### ③意見の整理

多様な立場の関係者が議論する場では、出てくる意見も多種多様です。その中で、賛成か反対という二項対立的な構造にしてしまうと合意が困難となります。賛成意見の中にも一部反対があり、また逆のこともあります。意見を大きな枠組みでとらえるのではなく、しっかり分析・整理・可視化することで、差異や共通点を明確化することが重要です。

また、明確な意見を表明しない方の意見を引き出していくことも重要となります。

#### ④納得・許容の形成

多くの人々が関わる議論において、全員一致で賛成する結論を出すことは非常に困難ですが、適切なプロセスを通じて関係者が議論を重ねることにより、着地点を見つけることは可能です。 最終的な結論に 100%賛成できずとも、①から③の積み重ねにより、人と人がつながり、それぞれの立場・考えに理解が生まれ、互いに尊重できるようになることが重要です。これにより、関係者が互いに納得・許容できている状態が形成されたときに、合意形成ができたと言うことができます。

# 第3章 合意形成を支えるまちづくりプラットフォーム

#### 1 目的

様々なまちづくりの取組みにおいて、第2章で示した合意形成のあり方を実現していくにあたって、各地域が自力でこれらの環境や仕組みを整えていくことは困難だと考えられます。

そのため、**第三者としてまちづくりの合意形成の実現を支援する共通基盤として「まちづくりプラットフォーム」を構築**し、共通認識に基づく、納得・許容のできるまちづくりを推進していきます。

#### 2 対象

まちづくりプラットフォームは、ハード・ソフトを問わず区内のまちづくりに関する取組みを 行う団体・組織等を対象として、合意形成を支援します。また、それぞれの取組みの規模やスピード感に応じて、必要なタイミングで柔軟に支援を提供していきます。

# 3 まちづくりプラットフォームの全体像

まちづくりプラットフォームの運営組織は、事務局と専門家委員会で構成します。まちづくり プラットフォームは、区内でまちづくりに関する取組みを行う団体・組織等(既存・新規の地域 別まちづくり協議会・まちづくり検討会)をエリアプラットフォームと定め、その規模や実情に 応じてきめ細かく支援することで地域のまちづくりの取組みを支えていきます。

まちづくりプラットフォームは、エリアプラットフォームの要望に応じて支援していきます。 エリアプラットフォームは、支援を受けながら関係者が主体的に合意形成を図り、まちづくりの 取組みの実現に向かっていきます。そして、その結果をまちづくりプラットフォームにフィード バックします。これにより、エリアプラットフォームにおいてはスムーズな合意形成が促進さ れ、まちづくりプラットフォームにおいては将来のまちづくりに活用できる合意形成の事例やノ ウハウが蓄積されます。

# 【事務局】

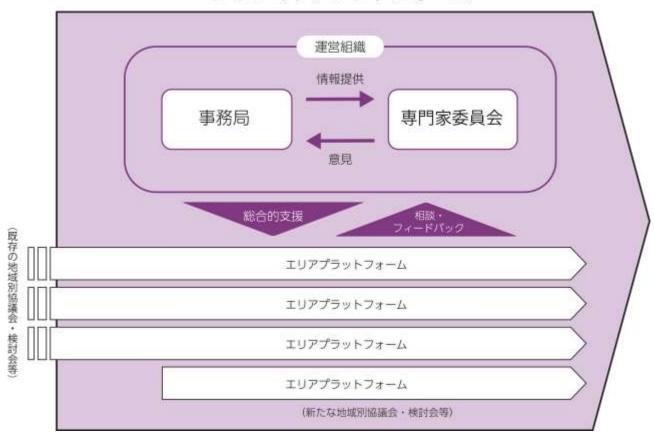
- 各エリアプラットフォームを支援する機能を実行するための手続きを行う際の窓口となります。
- 専門家委員会における議論やまちづくりプラットフォームが関わったまちづくり事例等の記録を整理し、将来にわたって千代田区のまちづくりに活用できるノウハウを蓄積します。

# 【専門家委員会】

- 専門知識と現場経験のある有識者(学識経験者、NPO関係者等)と、地域・行政・民間事業者等の関係づくりと合意形成を後押しする(仮称)まちづくりコミュニケーターで構成します。
- 有識者は、都市計画、まちづくり、社会学、法律等の視点から、スムーズな合意形成のための助言や支援を行います。
- (仮称) まちづくりコミュニケーターはエリアの地域特性等に精通し、関係者の意見を引き出して議論を進行し、エリアプラットフォームに伴走しながら支援します。

#### ▼まちづくりプラットフォームの全体像

# まちづくりプラットフォーム



#### ▼エリアプラットフォームの取組みとまちづくりプラットフォームの継続的な支援のイメージ

エリアプラットフォーム 幸実際の流れは各エリアプラットフォームや 課題等によって異なる



#### 4 まちづくりプラットフォームの機能

#### 機能 ①

# 区内におけるまちづくりの合意形成の統括

- 千代田区のまちづくりにおける合意形成のあり方を示します。
- 区内の各種まちづくり事例、まちづくりの合意形成事例等を分析・整理して、未来のまちづくりの合意形成に活かします。
- まちづくりの合意形成の手法を整理し、その実行手順やノウハウを示します。
- 各工リアプラットフォームの状況を把握し、情報共有や連携を推進することで、区内のまちづくりネットワークを構築・強化します。
- 合意形成の場で(仮称)まちづくりコミュニケーターとして活躍できる人材を育成します。

# 機能 ②

# エリアプラットフォームへの継続的支援

#### [1] 助言・サポート機能

■ エリアプラットフォームの実情に応じて、ICT等の活用も含め、組織のあり方や合意形成の進め方等に関する助言・サポートを行います。

(例)

- ・ 各地域の目的に沿った組織づくりに向けた、エリアプラットフォームの運営体制やメンバー等に関する助言。
- ・ 関係者が課題解決に向けて主体的に動けるようにするための、合意形成の進め方等に関する助言・サポート。
- ・ 合意形成プロセスとして、導入すべき合意形成手段、その組み合わせ方、ゴールに向け たタイムスケジュール等の助言。
- ・ エリアプラットフォームが単なる多数決の場とならないようにするための、賛成と反対 の中間にある意見やサイレントマジョリティの声も取り入れる手法等に関する助言・サポート。

# [2]専門家等の派遣

■ エリアプラットフォームの要望や課題等に応じて専門家等を派遣し、スムーズな議論をサポートします。

(例)

- エリアプラットフォームの抱える課題等に応じた専門家を派遣する。
- ・ 各地域の実情に詳しく、地域・行政・民間事業者等の関係づくりや議論を後押しする(仮 称)まちづくりコミュニケーター等の人材を派遣する。
- ・ 中立の立場から関係者の意見を整理し、円滑に議論を進めるファシリテーターを派遣する。

#### [3] 合意形成ツールの提供

- まちづくりに関する合意形成に役立つ各種ツールを提供します。 (例)
- ・ エリアプラットフォームが地域に対して合意形成の過程や成果等の情報発信をするための ツール・サポートの提供。
- ・ 多様な立場の人々から幅広く意見を集めるためのツールを提供するとともに、ツールを活 用した意見の収集や整理を支援。

# 機能 ③

# まちづくりに関するデータベースの構築

- 千代田区都市計画マスタープランを始めとする各種計画やガイドラインのほか、過去の千代田区のまちづくり事例やまちづくり協議会の議事録、統計データなど、区が所有する、まちづくりに関する様々な情報やデータを幅広く集約します。それにより、まちの変化や状態を客観的に見られるようにします。
- まちづくりの合意形成を進めるために必要な合意形成の手法等について整理します。
- 集めた情報やデータを整理し、見やすく、分かりやすく、利用しやすいような形で公開することで、誰でも必要な時に必要な情報をスムーズに入手できるようにします。
- まちづくりの検討状況や具体の取組み等、今区内のまちづくりで起きていることがデータ ベースを見れば分かるように情報を整理していきます。

# 第4章 納得・許容が得られる合意形成に向けて

千代田区におけるまちづくりの合意形成と、それを支えるまちづくりプラットフォームの実現 に向けて、以下について検討していきます。

#### まちづくりプラットフォームの組織のあり方

まちづくりプラットフォームの各機能を滞りなく実行するために、最適な運営主体や運営方法 等、まちづくりプラットフォームの組織のあり方を検討していきます。

#### データベースのあり方

まちづくりプラットフォームの機能③「まちづくりに関するデータベースの構築」に向けては、データベースの情報を多様な関係者が誰でも簡単に入手できるようにする必要があります。 そのために、Web上での構築を検討しつつ、Webでは情報を取得できない方への対応や、データベースの内容や情報の見せ方等、運用方法等を含めたデータベースのあり方について検討していきます。

#### 合意形成の手法等に関する研究

第2章に示した合意形成のあり方の実現と、まちづくりプラットフォームによるエリアプラットフォームへの効果的な支援に向けて、合意形成に関する手法等について継続的に研究し、実装に向けて検討していきます。特に、まちづくりの取組みに関して明確な意見を表明しない方(いわゆるサイレントマジョリティ、サイレントマイノリティ)の意見を得るための仕組みや手法等について検討が必要です。

また、その結果を適宜データベースに反映することで、エリアプラットフォームの自主的かつ 効果的な合意形成を促進していきます。

#### ICTの活用

多様な関係者が時間・場所の制約を超えてまちづくりに関わりやすくするため、ICT を活用した合意形成の手法やツールについて研究し、実装に向けて検討していきます。同時に、ICT の活用により起こりうる問題(匿名性等)についても研究していきます。

#### 多様な人々の参画の推進

まちづくりの取組みについての分かりやすい情報発信・周知方法や、まちづくりへの興味・理解を深める取組み等の実施について研究し、まちづくりを「自分事」としてもらえるようにしていきます。また、外国人のまちづくりへの参画に向けた多言語による情報発信や、地域の基礎的コミュニティ(人と人とのつながり)の強化等を通じた参画についても推進していきます。